



実証番号 051-0922

本技術及びその性能に関して、環境省等による
 保証・認証・認可等を謳うものではありません。
www.env.go.jp/policy/etv

本実証試験結果報告書の著作権は、環境省に属します。

○ 全体概要

【留意事項】 この実証対象技術の反射日射によって、近傍の通行人の温熱感を上昇させる可能性がある。そのため、施工場所には十分に注意を要する。

実証対象技術／ 環境技術開発者	ハイドロテクトカラーコート ECO-EX／ TOTO オキツモコーティングス株式会社
実証機関	財団法人建材試験センター
実証試験期間	平成21年9月16日～平成22年2月26日

1. 実証対象技術の概要

無機系塗膜である上塗り層と特殊無機粒子を配合した中塗り層（アクリルシリコン樹脂系）による二層の塗膜層で近赤外線を反射する。

2. 実証試験の概要

2.1 空調負荷低減性能

高反射率塗料の熱・光学特性を測定し、その結果から、下記条件における対象建築物の外壁に高反射率塗料を塗布した場合の効果（冷房負荷低減効果等）を数値計算により算出する。数値計算は、実証対象技術の灰色の測定結果を用いて行った。なお、数値計算の基準は、灰色(N6)の一般塗料とした。ただし、実証対象技術の灰色の明度Vが6.0±0.2の範囲内でないものは、同じ明度の一般塗料を基準とした。一般塗料の日射反射率は、詳細版本編 4.2.2.(3)に示す推定式（詳細版本編 19 ページ参照）により算出した。

2.1.1. 数値計算における設定条件

(1) 対象建築物

工場〔床面積：1000m²、最高高さ：13.0m、構造：S造（鉄骨造）〕

注）周囲の建築物等の影響による日射の遮蔽は考慮しない。

対象建築物の詳細は、詳細版本編 4.2.2(1)①対象建築物（詳細版本編 14 ページ）参照。

(2) 使用気象データ

1990年代標準年気象データ（東京都及び大阪府）

(3) 空調機器設定

建築物	設定温度(°C)		稼働時間	冷房 COP	暖房 COP
	冷房	暖房			
工場	28.0	18.0	平日 8～17 時	3.55	3.90

(4) 電力量料金単価の設定

地域	建築物	標準契約種別	電力量料金単価(円/kWh)	
			夏季	その他季
東京	工場	高圧電力 A	13.59	12.51
大阪		高圧電力 BS	12.59	11.53

2.2 環境負荷・維持管理等性能

財団法人建材試験センター中央試験所の敷地内（埼玉県草加市）で屋外暴露試験を4ヶ月間実施する。屋外暴露試験終了後、熱・光学性能の測定を行い、屋外暴露試験前後の測定値の変化を確認する。

3. 実証試験結果

3.1 空調負荷低減性能及び環境負荷・維持管理等性能

(1) 熱・光学性能及び環境負荷・維持管理等性能試験結果*1【実証項目】

		黒色		灰色		白色	
		屋外暴露 試験前	屋外暴露 試験後	屋外暴露 試験前	屋外暴露 試験後	屋外暴露 試験前	屋外暴露 試験後
日射反射率	近紫外及び 可視光域 ² (%)	8.8	9.5	29.0	28.6	75.5	71.2
	近赤外域 ³ (%)	24.3	24.3	42.4	41.4	73.7	71.8
	全波長域 ⁴ (%)	15.6	16.1	34.9	34.2	74.6	71.4
明度	(—)	3.5	3.6	6.1	6.1	9.2	9.0
修正放射率(長波放射率)	(—)	0.90	0.90	0.89	0.89	0.89	0.89

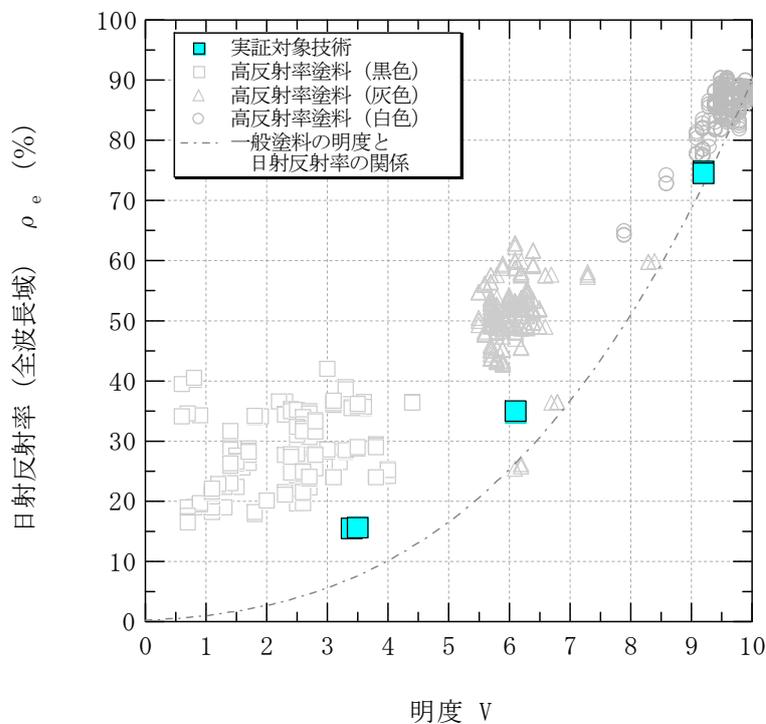
*1：屋外暴露試験前の結果は、試験結果（試験体数量=3）の平均値である。測定した試験体のうち、日射反射率（全波長域）が2番目に大きいものを屋外暴露試験に供した。その試験による性能劣化を把握するため、屋外暴露試験後に測定を行った。

*2：近紫外及び可視光域の波長範囲は、300 nm～780nm である。

*3：近赤外域の波長範囲は、780 nm～2500nm である。

*4：全波長域の波長範囲は、300 nm～2500nm である。

(2) 明度と日射反射率（全波長域）の関係【実証項目】



※左図は、平成 20 年度及び平成 21 年度環境技術実証事業ヒートアイランド対策技術分野（建築物外皮による空調負荷低減等技術）において実証を行った高反射率塗料と一般塗料の明度と日射反射率（全波長域）の関係を示したものである。

※明度 V が 10 に近い白色では、一般塗料と高反射率塗料とで日射反射率に差はほぼ無い。高反射率塗料は、近赤外域での反射率を高くする技術を使用しており、白色でない、灰色あるいは黒色でも日射反射率を高くする機能を持っている。左図に示したように、白色では一般塗料と高反射率塗料との間で差はないが、灰色、黒色では明らかに日射反射率に差が現れている。

（詳細は、詳細版本編 27 ページ【注意事項】）

図－1 明度と日射反射率（全波長域）の関係

(3) 分光反射率（波長範囲：300nm～2500nm）の特性

① 黒色

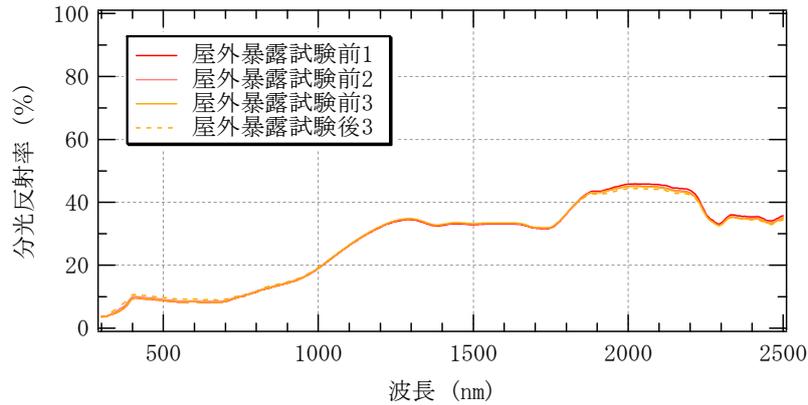


図-2 分光反射率測定結果（黒色）

② 灰色

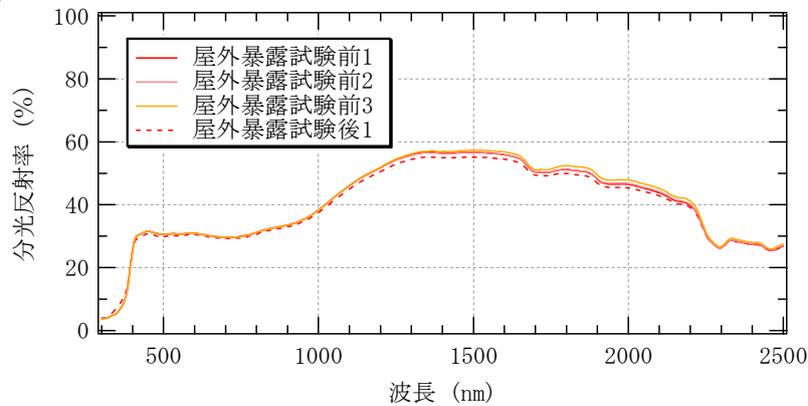


図-3 分光反射率測定結果（灰色）

③ 白色

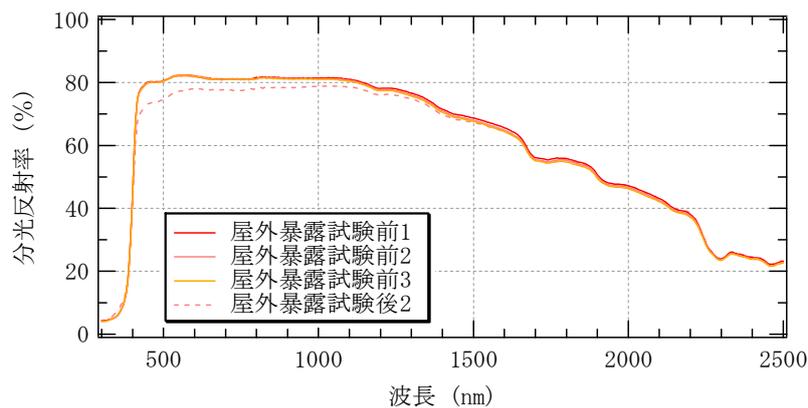


図-4 分光反射率測定結果（白色）

※ 屋外暴露試験前の番号は試験体に任意に付したものである。屋外暴露試験前の測定は、試験体のばらつきを考慮し、試験体数量 3 (n=3) として測定した。測定した試験体のうち、日射反射率（全波長域）が 2 番目に大きいものを屋外暴露試験に供した。その試験による性能劣化を把握するため、屋外暴露試験後に測定を行い、その試験体番号も記した。

3.1.2. 数値計算により算出する実証項目

(1) 実証項目の計算結果

		東京都	大阪府
		工場	
外壁表面温度低下量*1 (夏季 10 時(東面))		1.8 °C (45.7°C→ 43.9 °C)	1.3 °C (42.1°C→ 40.8 °C)
外壁表面温度低下量*1 (夏季 12 時(南面))		1.6 °C (45.6°C→ 44.0 °C)	1.4 °C (44.9°C→ 43.5 °C)
外壁表面温度低下量*1 (夏季 14 時(西面))		1.8 °C (47.3°C→ 45.5 °C)	1.5 °C (47.3°C→ 45.8 °C)
室温上昇 抑制効果*1 (夏季 14 時)	自然室温*2 (冷房無し)	0.2 °C (45.3°C→ 45.1 °C)	0.2 °C (46.9°C→ 46.7 °C)
	体感温度*3 (作用温度)	0.2 °C (45.3°C→ 45.1 °C)	0.2 °C (46.7°C→ 46.5 °C)
冷房負荷 低減効果*4 (夏季 1 ヶ月)	熱量	416 kWh/月 (一般塗料 34,893 kWh/月) 1.2 % 低減	516 kWh/月 (一般塗料 40,953 kWh/月) 1.3 % 低減
	電気料金	1,595 円/月	1,829 円/月
冷房負荷 低減効果*4 (夏季 6~9 月)	熱量	1,416 kWh/4 ヶ月 (一般塗料 89,417 kWh/4 ヶ月) 1.6 % 低減	1,602 kWh/4 ヶ月 (一般塗料 105,594 kWh/4 ヶ月) 1.5 % 低減
	電気料金	5,303 円/4 ヶ月	5,574 円/4 ヶ月
昼間の対流顕熱量低減効果 (夏季 1 ヶ月)		大気への放熱を 0.0% 低減 (315,845MJ→ 315,696MJ)	大気への放熱を 0.0% 低減 (385,679MJ→ 385,509MJ)
昼間の対流顕熱量低減効果 (夏季 6~9 月)		大気への放熱を 0.0% 低減 (1,138,821MJ→ 1,138,255MJ)	大気への放熱を 0.0% 低減 (1,340,075MJ→ 1,339,461MJ)
夜間の対流顕熱量低減効果 (夏季 1 ヶ月)		大気への放熱を 1.9% 低減 (2,636MJ→ 2,587MJ)	大気への放熱を 1.0% 低減 (5,811MJ→ 5,751MJ)
夜間の対流顕熱量低減効果 (夏季 6~9 月)		大気への放熱を 2.0% 低減 (9,290MJ→ 9,104MJ)	大気への放熱を 1.0% 低減 (22,794MJ→ 22,571MJ)

*1: 8月 1 日~10 日の期間中最も日射量の多い日時における対象部での外壁表面温度・室温の抑制効果

*2: 冷房を行わないときの室温

*3: 平均放射温度 (MRT) を考慮した温度 (室温と MRT の平均)

*4: 夏季 1 ヶ月 (8 月) 及び夏季 (6~9 月) において室内温度が冷房設定温度を上回ったときに冷房稼働した場合の冷房負荷低減効果

注) 数値計算は、モデル的な工場を想定し、各種前提条件のもと行ったものであり、実際の導入環境とは異なる。なお、数値計算の基準は、灰色 (N6) の一般塗料とした。ただし、実証対象技術の灰色の明度 V が 6.0±0.2 の範囲内でないものは、同じ明度の一般塗料を基準とした。一般塗料の日射反射率は、詳細版本編 4.2.2(3)に示す推定式 (詳細版本編 19 ページ参照) により算出した。

(2) 参考項目の計算結果

		東京都	大阪府
		工場	
冷房負荷 低減効果*1 (年間空調)	熱量	1,888 kWh/年 (一般塗料 95,171 kWh/年) 2.0 % 低減	2,331 kWh/年 (一般塗料 118,525 kWh/年) 2.0 % 低減
	電気料金	6,965 円/年	7,942 円/年
暖房負荷 低減効果*2 (冬季1ヶ月)	熱量	-553 kWh/月 (一般塗料 11,033 kWh/月) -5.0 % 低減	-326 kWh/月 (一般塗料 14,471 kWh/月) -2.3 % 低減
	電気料金	-1,776 円/月	-965 円/月
暖房負荷 低減効果*2 (冬季 11~4 月)	熱量	-1,791 kWh/6ヶ月 (一般塗料 39,721 kWh/6ヶ月) -4.5 % 低減	-1,151 kWh/6ヶ月 (一般塗料 46,170 kWh/6ヶ月) -2.5 % 低減
	電気料金	-5,745 円/6ヶ月	-3,404 円/6ヶ月
冷暖房負荷 低減効果*3 (期間空調)	熱量	-375 kWh/年 (一般塗料 129,138 kWh/年) -0.3 % 低減	451 kWh/年 (一般塗料 151,764 kWh/年) 0.3 % 低減
	電気料金	-442 円/年	2,170 円/年

*1: 年間を通じ室内温度が冷房設定温度を上回ったときに冷房が稼働した場合の冷房負荷低減効果

*2: 冬季1ヶ月(2月)及び冬季(11~4月)において室内温度が暖房設定温度を下回ったときに暖房が稼働した場合の暖房負荷低減効果

*3: 夏季(6~9月)において室内温度が冷房設定温度を上回ったときに冷房が稼働した場合及び冬季(11~4月)において室内温度が暖房設定温度を下回ったときに暖房が稼働した場合の冷暖房負荷低減効果

注) 数値計算は、モデル的な工場を想定し、各種前提条件のもと行ったものであり、実際の導入環境とは異なる。なお、数値計算の基準は、灰色(N6)の一般塗料とした。ただし、実証対象技術の灰色の明度Vが6.0±0.2の範囲内にはないものは、同じ明度の一般塗料を基準とした。一般塗料の日射反射率は、詳細版本編4.2.2.(3)に示す推定式(詳細版本編19ページ参照)により算出した。

(3) (1)実証項目の計算結果及び(2)参考項目の計算結果に関する注意点

- ① 数値計算は、モデル的な工場を想定し、各種前提条件のもと行ったものであり、実際の導入環境とは異なる。
- ② 熱負荷の低減効果を熱量単位 (kWh) だけでなく、電気料金の低減効果 (円) としても示すため、定格出力運転時における消費電力 1kW 当たりの冷房・暖房能力 (kW) を表した COP 及び電力量料金単価を設定している。
- ③ 数値計算において設定した冷暖房の運転期間は、下記の通りとした。
 - ・ 夏季 10 時 : 8 月 1 日～10 日の期間中最も日射量の多い日の 10 時
 - ・ 夏季 12 時 : 8 月 1 日～10 日の期間中最も日射量の多い日の 12 時
 - ・ 夏季 14 時 : 8 月 1 日～10 日の期間中最も日射量の多い日の 14 時
 - ・ 夏季 1 ヶ月 : 8 月 1～31 日
 - ・ 夏季 6～9 月 : 6 月 1 日～9 月 30 日
 - ・ 冬季 1 ヶ月 : 2 月 1 日～28 日
 - ・ 期間空調 : 冷房期間 6～9 月及び暖房期間 11～4 月
 - ・ 年間空調 : 冷房期間 1 年間*1

*1: 設定温度よりも室温が高い場合に冷房運転を行う。
- ④ 冷房・暖房負荷低減効果の熱量の欄にある「一般塗料 ○○kWh/△△」とは、一般塗料を塗布した状態において、日射・電気機器等により室内に加えられる熱負荷の一定期間における総和を示している。
- ⑤ 電気料金について、本計算では高反射率塗料の塗布による室内熱負荷の差を検討の対象としていることから、種々の仮定が必要となる総額を見積もることをせず、熱負荷の変化に伴う空調電気料金の差額のみを示している。

3.2 環境負荷・維持管理等性能【参考項目】

【付着性試験】

	屋外暴露試験前	屋外暴露試験後
付着強さ(N/mm ²)	0.6	0.8

*1: 結果は、試験結果 (試験体数量=3) の平均値である。

*2: 破壊状況は、詳細版本編 5.2 に詳細を示す (詳細版本編 26 ページ参照)。

4. 参考情報

(1)実証対象技術の概要（参考情報）及び(2)その他メーカーからの情報（参考情報）は、全て環境技術開発者が自らの責任において申請したものであり、環境省及び実証機関は、内容に関して一切の責任を負いません。

(1) 実証対象技術の概要（参考情報）

項目		環境技術開発者 記入欄		
環境技術開発者		TOTO オキツモコーティングス株式会社		
技術開発企業名		TOTO オキツモコーティングス株式会社		
実証対象製品・名称		ハイドロテクトカラーコート ECO-EX		
実証対象製品・型番		—		
連絡先	TEL	0467-54-3376		
	FAX	0467-54-1181		
	Web アドレス	http://www.hydrotect.jp/		
	E-mail	koji.okubo@jp.toto.com		
ヒートアイランド対策技術の原理		無機系塗膜である上塗り層と特殊無機粒子を配合した中塗り層(アクリルシリコン樹脂系)による二層の塗膜層で近赤外線を反射する。		
技術の特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・ 表層(上塗り層)は無機系樹脂、中塗り層はアクリルシリコン樹脂を使用しているため、耐候性に優れる。 ・ 光触媒による強力な防汚性能を備えるため、塗膜表面の汚染による遮熱性の低下が少ない。 ・ 色の選択範囲が広く、さまざまなニーズに対応できる ・ 水性塗料のため扱い易く、環境にもやさしい。 		
設置条件	対応する建築物・窓など	建築・構造物の外壁		
	施工上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塗装場所の気温が 5℃以下、湿度 85%以上の場合には塗装を避ける。 ・ 降雨、降雪時の塗装は避ける。 詳細はカタログ等参照。		
	その他設置場所等の制約条件	特になし		
メンテナンスの必要性 耐候性・製品寿命など		耐候性は 20 年相当		
コスト概算		設計施工価格(材工共)	4,800 円	1m ² あたり
		[備考] 上記価格は、既存塗膜の模様を活かした仕上げにて、300m ² 以上での参考価格である。		

(2) その他メーカーからの情報（参考情報）

--